連載 建築に自由を与える照明

by SmartArchi

《第6回》佐々木葉二氏に聞く「ランドスケープの照明計画」

省エネや効率を考えながら，いかに快適な光環境をつくれるか．改めて，建築における照明が果たす役割が問われています．この連載では，パナソニックの建築照明器具SmartArchi（スマートアーキ）を題材に，各回，建築がより自由になるための照明設計のヒントとなるトピックを取り上げます．第6回はさいたまけやき広場や，衆議院議長公邸のランドスケープを設計した佐々木葉二氏にお話いただきました．（編）

撮影：細川和昭

衆議院議長公邸．

撮影：中野正則

新都ホテル．

ランドスケープと光

――ランドスケープを計画していく中で，光に関してどのような考えをお持ちですか?

佐々木葉二（以下，佐々木）　私がランドスケープと光の関係を考えるようになったのは，ルイス・バラガンのベベデロ・プラザを見てからです．現象をいかに映すか，太陽の運行をどのように映し込むか，そこが初めてランドスケープと光の関わりを目撃した場所でした．道路などの土木の照明というのは安全性が求められるため，太陽の代わりとしての照明の意味合いが大きい．しかし，ランドスケープの光は，場所の持っている昼と夜の場面転換の仕掛けと捉えると分かりやすいでしょう．たとえば，夜は，闇の美しさや雰囲気をどう出すか．月の光のように幻想的で美しい光の感覚に包まれる空間を生み出せる照明を考えなければいけないと思います．

現象を映し出す床

――実際の作品ではどのようなことを考えてデザインされていますか?

佐々木　ピーター・ウォーカーと共同で計画した，さいたまけやき広場（本誌0007）は，木や石などの素材にだけに頼るのではなく，床に映りこむ樹木の影や光といったリフレクション（反映）をテーマにしました．ここには，氷川神社の森を1ha切り取って浮遊感覚のある広場にしようという「空の森」がコンセプトで，220本のケヤキを6mのグリッド間隔で植え，森のパビリオンやサンクンプラザもあります．太陽が出ている日中，ケヤキは夏には葉が生い茂り，木漏れ日を落とし，葉が落ちた冬は，樹形が美しい影を落とす．そこで広場の床には，刻々と映ろう自然の様相を人びとに体感させる鏡としての素材を採用しています．一方，夜の照明計画は間接照明を基本として，建築やファニチャーそのものがあかりとなる「建築化照明」を目指し，光の床のユニットをつくっています．これは，人工地盤上のケヤキへの通気性確保のため浮き床システムで20cmの空気層をつくり，同時にその下部にグリッド照明を組み込むことで広場に幻想的な光の領域を生み出すことができました．また，ケヤキの間に配置した木製ベンチのストライプ状側壁の間から光が漏れて光の籠となる照明をつくりました．光の床ユニットは，アッパーライトでケヤキを見せ，光によって領域をつくることで夜の空間ができあがっています．ランドスケープデザインでは，壁なしでいかに空間をつくるか，Space without Wallの思想が大事です．例えば，エジプト人がサハラ砂漠に行ってパーティーを開く時，砂漠に絨毯を敷けばそこに壁なしで空間ができる．そのような，光の反復的配置によって，囲われた建築の壁から人の眼を引き離し，いかに空間のリアリティに気付かせるかが，ランドスケープでは重要なことです．

佐々木葉二（ささき・ようじ）
1947年奈良県生まれ／ 1971年神戸大学卒業／ 1973年大阪府立大学大学院修士課程（緑地計画工学）修了／ 1987～ 89年カリフォルニア大学（バークレー）大学院および，ハーバード大学デザイン学部大学院・客員研究員／現在，京都造形芸術大学教授，鳳コンサルタント環境デザイン研究所顧問，佐々木デザインアトリエ代表

夜の現象をあぶり出す

佐々木　京都駅前にある新都ホテルの結婚式場の計画では水の現象を照明で映し出そうと考えました．結婚式場の外壁から水が落ちるような12個のカスケードをつくり，その下に水面を置いて，揺らめく光をつくりました．水中に照明を入れ．水が落ちると波紋ができ，それが凹凸のある壁面に映りこむことで，幻想的にゆらめく光の空間ができあがります．ここでの場面転換の仕掛けです．ランドスケープの照明は，太陽の代用ではないですから，形態ではなく，場所の気配や現象をいかに映し出すか．夜の現象をあぶり出す光をつくれば，ランドスケープ独自の照明になると思います．

衆議院議長公邸（本誌0110，設計：内井昭蔵＋内井昭蔵建築設計事務所）では，庭に照明を置くのではなく，庭全体に白砂を敷き詰めて，建築からの光で庭を照らすことを考えました．建築から漏れる光を白砂が反射して，青白く光る幻想的な庭の風景になります．この風景は銀閣寺の銀沙灘に繋がるものです．銀閣寺では，月の光が白砂に反射し，軒下に塗り込められた銀箔によってその光が室内に入り込んでいました．地面からの反射光が，室内に穏やかに入って来る夜の光を当時の人びとは楽しんでいたのです．

日本人が本来持っていた光に対する感覚

――日本人が持っていた光の感覚はどのようなものだったのでしょうか?

佐々木　実は，日本人は夜の光を豊かな方法で楽しんで日本文化を築いてきました．1660年に完成したバロック建築のベルサイユ宮殿では，宮殿内は蝋燭のシャンデリアで煌々と照らしましたが，庭では夜の光に美しさを見出す文化を持っていませんでした．インドの庭にしても，中国の庭にしても，夜を楽しむようなものは存在せず，日本にしかなかったと思います．それをいちばん体現しているのは，灯籠です．灯籠のゆらゆら揺れる光が夜の庭の雰囲気をつくったわけです．お茶室の露地でも同じです．露地そのものを，昼間のように明るくするのではなく，照らしてないところを意識してポイントとなる光しか焚かない．揺らめく光によって，その叙情を楽しむことによって茶室に入っていく．そのような夜の庭をつくった例は，日本にしかないと思います．行燈や灯篭に代表されるようにぼんやりした光にやわらかな陰影を見る感性や，その場の空間の質をあぶり出すという感覚は日本人独自のものです．その感覚を大事にしながら，夜の風景をつくっていくことで，日本本来の夜の光を楽しむという感覚を取り戻せるのではないかと思っています．

光のメリハリ度「V」

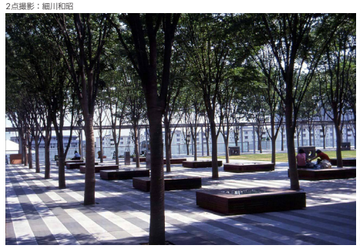
その日本独特のあぶり出す光や場面が持っている現象を映し出すための有効な指標が今まではなかったのです．照度や照度範囲だけでは雰囲気や領域をつくることが難しく，感覚に頼るところが多くありました．

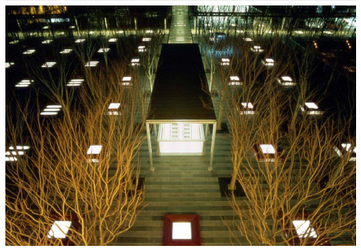
その中で，V（ヴィー）はそのような光をつくるために有効な指標になると思います．また，メリハリのある光によって，都市空間の色彩や，リズム感をあぶり出せる．たとえば，歩道照明をスポットライトで行う時，どの程度のピッチで光と闇をつくっていくかがいちばんの問題です．光のメリハリがあることで歩行者やその空間に安心感を与える．そのリズムをつくり出す時，Vを使いながらこの道は賑やかにしていこうとか，歩くリズムに合わせて空間をつくっていくことができる．今までは，照度と照明範囲しかなかったので，そのようなメリハリ度の感覚が分からなかったのです．照明を並べていってその重なりの部分はどうなるのか，うまく把握できなかった．外部空間のリズム感をあぶり出すという点ではとてもよい設計の助けになるはずです．また，そのようなメリハリ度があることで，床や植栽の表情が浮かび上がってきます．

日本人がもともと持っていた光と影をミックスして外部空間の質をあぶり出す手法と，FeuやVといった新たな指標はとても相性がよく，このような指標を使いながら設計していくことで，日本本来の光の感覚を取り戻せていけるとよいと思います．

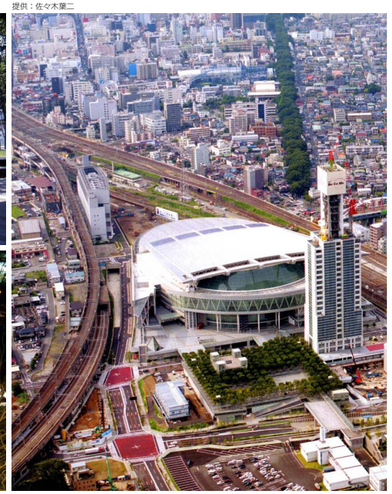
（2012年12月17日，白雨館（自邸）にて　文責：本誌編集部）

2点撮影：細川和昭





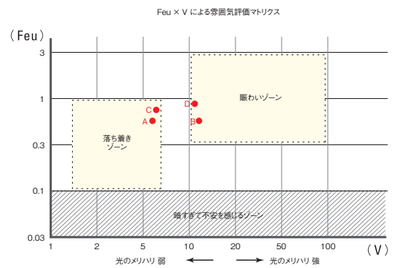
提供：佐々木葉二



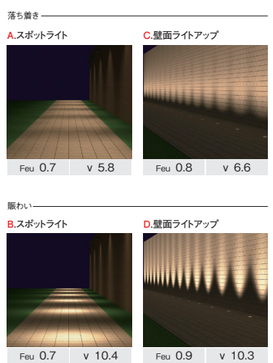
左上：さいたまけやき広場，夏の風景．葉が生い茂り床に木漏れ日が落ちる．左下：夜景．ベンチからの光がケヤキの枝をライトアップする．右：大宮駅周辺俯瞰．氷川神社より緑が連続する．

この連載は，（社）日本建築士会連合会の継続能力開発（CPD）の「自習型認定研修」教材として認定されました．2013年1月号の第5回から2013年3月号の3回分で1単位を取得できます．
単位取得のための設問は3月号に掲載する予定です．
CPD制度の詳細は，下記ホームページ参照．
URL http://www.kenchikushikai.or.jp

光の指標「V（ヴィー）」



人の心理評価実験により，落ち着きと賑わいを感じるゾーンが存在することが分かった（Feu0.1以下は暗すぎて不安を感じるゾーン）．この範囲を意図したシミュレーションを行うことで，人の心理に近い正確な設計が可能になる．



屋外のような暗い空間では，明るさ感は同じでも，光のメリハリ度によって空間の印象が大きく違ってくる．V（ヴィー）はこの光のメリハリ度を数値化した指標．適切な明るさ感Feu（フー）を確保しながら，光のメリハリ度V（ヴィー）を組み合わせることによって，「落ち着きのある空間」「賑わいのある空間」というふたつの雰囲気を定量的に設計することが可能になる．

SmartArchiのWebサイトでは，各空間のFeuを使った設計モデルプランなど，照明設計に役立つさまざまなコンテンツを用意している．

http://www2.panasonic.biz/es/lighting/smartarchi/

スマートアーキ　検索

パナソニックの建築照明器具SmartArchi（スマートアーキ）に対する率直なご意見，要望を含めて，右記URLからアンケートにお答えください．　http://www.cgc.ne.jp/panasonic201210/